



平成 19 年 4 月 4 日

明治安田生命保険相互会社
株式会社みずほフィナンシャルグループ
株式会社損害保険ジャパン
第一生命保険相互会社

今年も全国の新入学一年生 120 万人へ「黄色いワッペン」を贈呈

新入学一年生 16 名が参加して、ピーポくん、警視庁騎馬隊・白バイ隊の協力で交通安全教室も

明治安田生命保険、みずほフィナンシャルグループ、損害保険ジャパン、第一生命保険の 4 社は、4 月 4 日（水）、港区立男女平等参画センター「リーブラ」で、第 43 回「黄色いワッペン」贈呈式と交通安全教室を開催しました。

贈呈式には、この春小学校へ入学する新一年生の代表 16 名と全日本交通安全協会、東京交通安全協会をはじめ内閣府、警察庁、東京都、警視庁、全国連合小学校長会および主催 4 社の関係者が出席し、主催者から全日本交通安全協会へ 110 万枚、東京交通安全協会へ 10 万枚の黄色いワッペン贈呈の目録が手渡されました。関係者から、事故の怖さや交通ルールを守ることの意味などを聞いた豊島区立清和小学校に入学予定の金澤 元輝（かなざわ・げんき）くんは、「学校へ行くときは、黄色いワッペンをつけて、交通ルールを守ります。大人の人達も車の運転に気をつけて下さい」とお礼の言葉を述べました。

式の後には、警視庁の協力で、マスコットの「ピーポくん」、女性警察官、騎馬隊、女性白バイ隊 クイーンスターズの指導による交通安全教室を開催しました。（下記写真）



「黄色いワッペン」贈呈事業について――

ひとつの新聞記事がきっかけ

新入学一年生に対する「黄色いワッペン贈呈事業」は、昭和40年に富士銀行（現みずほフィナンシャルグループ）が創業85周年を記念して「よい子に注意、よい子も注意」をスローガンに始めた交通安全事業です。そのきっかけとなったのは、ひとつの新聞記事でした。それは、愛するわが子を交通事故で失った母親が、総理大臣宛に交通事故の撲滅を訴えた手紙でした。昭和40年当時、交通戦争は一番の社会問題だったのです。そこで、幼い子供を交通事故から守る手立てはないかと思案の結果、子供に目立つものを身につけさせたらということになり、本事業が誕生しました。翌年には、安田火災海上保険、安田生命保険の2社を、また翌々年には安田信託銀行も加え、平成14年までこの4社で実施してきました。事業開始当初は、「黄色い腕章」を贈呈していましたが、昭和49年より現在のような「ワッペン」に形を変えました。なお、平成16年より明治安田生命保険相互会社、株式会社みずほフィナンシャルグループ、株式会社損害保険ジャパン、第一生命保険相互会社の4社で本事業を実施しています。

「黄色いワッペン」に込めた願い

わが子の交通安全を願う親の気持ちは今日においても変わることはありません。「黄色いワッペン」には、学校に通い始める子供自身がそれをつけることで「交通安全」に関心を持ってほしいという願いと、保護者の方々やドライバーの方々に注意を喚起することで、少しでも子供の交通事故防止に役立てたいという願いが込められています。

交通事故傷害保険

「黄色いワッペン」には昭和43年より交通事故傷害保険がつけられており、このワッペンの交付を受けた新入学一年生が登下校の際に万一事故に遭い、死亡もしくは後遺傷害が残った場合、保険金が支払われます。当初は、保険有効期間が3ヵ月、保険金額が最高3万円でした。その後少しずつ改定され、平成6年の第30回を機に、保険有効期間を1年間に、保険金額を最高50万円に延長・増額しました。今年度の新一年生の保険有効期間は平成19年4月1日～平成20年3月31日の1年間となります。

交通安全スローガン

今年度の「黄色いワッペン」には、平成19年度の交通安全スローガン内閣総理大臣賞こども部門最優秀賞「青だけど 車はわたしを 見てるかな」が刷り込まれています。昭和40年の第1回から本年4月の第43回までの贈呈枚数は、約5,306万枚にのぼっています。なお、「黄色いワッペン」は環境に配慮した素材ポリオレフィンを使用しています。

第43回「黄色いワッペン」贈呈式



「黄色いワッペン」を着けた新入学一年生たち

左から

福島 和夫	東京交通安全協会 専務理事
中村 正則	全日本交通安全協会 専務理事
前田 晃伸	みずほフィナンシャルグループ 代表取締役社長
佐藤 正敏	損害保険ジャパン 代表取締役社長
松尾 憲治	明治安田生命保険 取締役代表執行役社長
斎藤 勝利	第一生命保険 代表取締役社長